

おたぎり つよし  
小田桐 毅

# 編集委員報告

## 民芸品作り10年 札幌村文化センター

# 太く長く 麦わら細工

札幌市の有志グループ、札幌村文化センター（土肥信子代表理事、16人）が道内では珍しい麦わらを使った民芸品作りに取り組んで10年になる。「麦わらの魅力を伝えたい」と普及活動に務める一方、技術の伝承を図るため、開発した民芸品の商品化を目指しており、息の長い活動を続けている。

同センターは1979年、同市東区の郷土史研究グループとして発足した札幌村歴史研究会が前身。幕末に開削され市内を南北に貫く創成川の元となった大友堀の研究や、札幌市内のタマネギ栽培の歴史をまとめた書籍にして出版するなどしてきた。

2001年には、歴史発掘から郷土の産業や文化の伝承を目指すため、NPO法人（現在は任意団体）とし札幌村文化センターに改組された。戦後も農家などで作られてきた」と土肥代表。

普及目指し講座 戦後も農家などで作られてきた」と土肥代表。

## 試作を重ね18種開発

称。「郷土の歴史と農業」をテーマにした市民向けの学習講座や、子供たちに農業体験を楽しんでもらう「親子体験農場」などを開

## 技術継承へ商品化も

ていたという虫かごなどの麦わら細工を参考にしたり、の普及を目指した市民講座や出前講座なども精力的に



大勢の市民らでにぎわったさっぽろライラックまじりの麦わら細工体験講座＝5月

をかけた、新たな細工の試作も続けている。細工作りの一方、作り方を

てきた福島と東京の女性2人が新たに会のメンバーに加わるなど、徐々にではあるが着実に広がりをみせている。

土肥代表は「せっかくなので、美しい麦わらがあるのに、単なる趣味の講座で終わらせるのはもったいない。なんとしても商品化し次世代に伝えていきたい」と意気込んでいる。

### 手仕事として貴重

各地の伝統的工芸品や民芸品を収蔵展示している日本民芸館（東京）の杉山享司学芸部長の話。麦わらの魅力を再発見し、文化として伝承を図る素晴らしい試み。新しい手仕事としてもたいへん貴重だ。生み出された細工が北海道を代表する民芸品の一つに育ってほしいと願っている。

### 歴史伝承は有意義

札幌市経済局農政部の三部英二部長の話。麦わらを農業文化の一つとして伝えていくのが、市民の責務だ。

# 民芸品作り

# 長く太く

# 試作を重ね18種開発

称。「郷土の歴史と農業」をテーマにした市民向けの学習講座や、子供たちに農業体験を楽しんでもらう「親子体験農場」などを開

# 技術継承へ商品化も

ていたという虫かごなどの麦わら細工を参考にしたり、国内外の文献をたよりに試作を重ね、これまで18種類を開発した。小物入れやネックレス、イヤリング、飾り類などで、いずれも独力で作り出したという。現在も毎月2回、会員が集まり技術の向上に磨きを

の普及を目指した市民講座や出前講座なども精力的に開催、各種の展示会などにも参加するなどしてPR活動にも力を入れてきた。09年からは毎年、札幌市内で開かれる「ライラックまつり」で、市民向けに細工づくり体験講座を開き、魅力のアピールしている。

「お守り」が関係者から高い評価を受け、「商品として有望になりつつある」という。

## ■徐々に会員増加

また、種類の一つだった指導者の育成と作り手の拡大についても、東日本大震災に伴い札幌市内に避難し

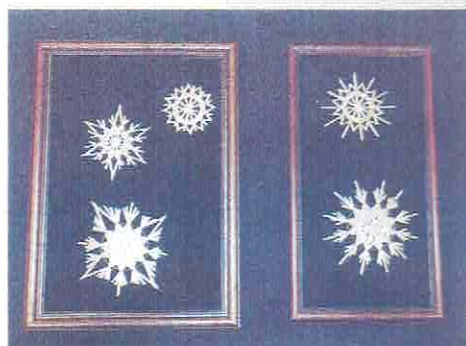
の共産 其のたの 麦わら細工と販路の確保が課題となってきたが、麦わらを編んで直径2センチほどの輪に仕上

## 歴史伝承は有意義

札幌市経済局農政部の三部英二部長の話  
麦わらを農業文化の一つとして伝えていくのは、たいへん意義深い。札幌村文化センターは過去には札幌の夕マネギの歴史を発掘するなどしており、農業の歴史伝承活動としても有意義な仕事だ。



麦わら細工の民芸品作りに取り組む札幌村文化センターのメンバー  
札幌市北区の札幌エルプラザ



麦わら細工の民芸品④雪の結晶をモチーフにした飾り⑤小物入れ⑥ネックレスとイヤリング